

第4回三宮構想会議

平成27年6月18日

第4回 三宮構想会議

1 日時 平成27年6月18日(木) 午前10時～12時04分

2 場所 神戸市役所1号館14階大会議室

3 出席者

【委員(34人)】

(1) 地元組織代表

小田 俱 義	久野 茂 樹
坂本 圀 昭	土井 一 三
永田 耕 一	古川 勝
松下 秀 司	

(2) 交通事業者代表

奥野 雅 弘	平野 剛
宮本 一 郎	村田 豊 喜
横山 章	上杉 雅 彦(代理 中野)
宇都宮 道 夫(代理 竿山)	中谷 靖
西村 幸 久	吉川 紀 興

(3) 経済界

植村 一 仁	植村 武 雄
松田 茂 樹	

(4) 学識経験者

小谷 通 泰	加藤 恵 正
小浦 久 子	相良 二 朗
末包 伸 吾	牧 紀 男

【オブザーバー(4人)】

国土交通省近畿地方整備局	松村 知 樹(代理 橋本)
国土交通省近畿運輸局	北川 健 司(代理 重末)
兵庫県	貝塚 史 利
兵庫県警察本部	三宅 佳 史(代理 柏谷)

4 議事

(1) 開会

(2) 委員の紹介

(3) 会議資料の説明

(4) 議事

- ・パブリックコメントに向けた「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」素案に対する
意見交換

(5) 閉会

5 議事の内容 別紙のとおり

1. 開会

○三島都心三宮再整備担当部長

皆さんおはようございます。本日は大変お忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございます。

まず、開会に先立ちまして、皆様に1点ご確認させていただきたいと思っております。

本日は報道機関より、当会議の会議風景を撮影したい旨、申し入れがございましたので、議事に入るまでということに許可したいと思います。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

○三島都心三宮再整備担当部長

ご異議がないようですので、撮影を許可したいと思います。

報道機関の方は、撮影をしていただいて結構でございます。

ただいまより第4回三宮構想会議を開催させていただきます。

私は、住宅都市局計画部都心三宮再整備担当部長の三島でございます。事務局として、進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

2. 委員の紹介

○三島都心三宮再整備担当部長

それではこれより三宮構想会議を進めるに当たりまして、まずはお手元の資料を確認させていただきます。

次第と会議資料2及び資料3につきましては、事前に送付させていただいております。

本日、資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、お申し出ください。続きまして、本日の配付資料でございますが、資料1委員名簿につきましては、事前に送付ができておりませんでした。大変失礼いたしました。また、参考資料1として、三宮周辺地区に求められる都市機能について、という形で5月初めに委員の皆様方に事前に意見照会させていただいた結果を整理した資料でございます。参考資料2といたしましては、5月25日に本市が発表いたしました三宮周辺地区のまちづくりの方向性に対する意見募集結果について整理した資料でございます。参考資料3といたしましては、本日議論いただきます三宮周辺地区の平面図でございます。その他といたしまして、本日言い足りなかつたご意見をご記入いただく用紙を配付いたしております。資料に不足があればお申し出ください。

続きまして、本日のご出席いただいております委員及びオブザーバーの皆様のご紹介をさせていただきます。委員のご紹介につきましては、本日お配りいたしております資料1委員名簿をごらんいただくことで省略させていただきたいと思っております。なお、今回から新たに委員になれる方のご紹介をさせていただきます。三宮南まちづくり協議会の坂本委

員でございます。続きまして、阪急電鉄の奥野委員でございます。続きまして、阪神電鉄の村田委員でございます。また、欠席者のご報告と代理でご出席をいただいている方についてのみご紹介させていただきます。牧委員がご欠席でございます。また、上杉委員の代理といたしまして中野様にご出席いただいております。また、宇都宮委員の代理といたしまして、竿山様にご出席いただいております。続いてオブザーバーでございますが、今回から国土交通省近畿地方整備局の松村様、並びに兵庫県国土整備部の貝塚様に変更しております。また、本日は国土交通省近畿地方整備局の橋本様が代理でご出席いただいております。続きまして、国土交通省近畿運輸局の重末様が代理でご出席いただいております。兵庫県警察本部の柏谷様が代理でご出席をいただいております。オブザーバーで兵庫県国土整備部の貝塚様にご出席いただいております。出席者のご紹介は以上でございます。

報道機関の撮影は、ここで終了したいと思います。よろしく申し上げます。

ここからは小谷会長に進行をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 会議資料の説明

○会長

皆さん、おはようございます。よろしくお願いいたします。

それでは、配布されております議事次第にしたがいまして、会議を進行させていただきたいと思っております。まずは、会議資料の説明について事務局よりお願いいたします。

○都心三宮再整備担当課長

住宅都市局計画課都心三宮再整備担当課長の若林と申します。私のほうから説明させていただきます。

まず、資料の2でございます。前回の第3回構想会議の要旨でございますが、振り返らせていただきたいと思います。前回の会議内容でございますが、まちづくりの方向性及び駅前空間のあり方についてご意見をいただいたということになってございます。大きく、三つほど挙げさせていただきたいと思います。一つ目は、歩行者空間のあり方についてご議論いただいたと思います。これにつきましてはいろいろご議論いただきましたが、前回の会議の最後に、小谷会長にこのような形でまとめていただいたと思います。少しご紹介させていただきますと、この三宮という非常に狭いエリアの中で六つの駅がひしめき合い、公共空間が非常に少ない、そういった中でえき＝まち空間という一つのキーワードが新しい空間のとらえ方として提案がなされた。これを原点として、その中で交通の円滑な結節機能だとか、歩行者の滞留、回遊機能、こういったものをどのように確保するのか。また、一方でえき＝まち空間とその周辺のまちをどのようにつないでいくのか。えき＝まち空間の中でこれから予想されるであろういろいろな開発等について、建物についてはそのデザイン、計画等についてどのように配慮していくのか。そういうことを一体的に考えていく

ということが今回の構想の大きな目玉ではないかと、このようにまとめていただいたと思います。歩行者優先、公共交通優先ということに関しては皆さんの共通認識であると、そういった中で、その実現の方法につきましては多様な方法論があるが、それについては事務局のほうで詰めていっていただきたいと、このような形でまとめていただいたと、感じています。

二つ目が前回お示ししました資料の中でも、この都心の三宮の中に求められる都市機能について、どういった機能が必要なのかというお話が論点としてございました。また、どのような新たな都市機能を入れて展開していくべきか、これについては我々の資料も十分ではなかったということもございまして、前回の会議で、後ほど委員の皆様にはヒアリングをさせていただきたいということになっていました。参考資料でそれをつけ足しておりますが、本編にそのヒアリング結果を踏まえてその内容を組み込んでございますので、本編の資料説明の際にご説明させていただきたいと思います。

三つ目ですが、前回のご議論の中で具体的なロードマップというスケジュール、そういったものをちゃんと示していくべきではないかと、このようなご意見をいただいたと思います。

前回の振り返りとしましては、資料の要旨を見ていただくと大きくこの三つかと思っています。

続きまして、参考資料1をごらんください。先ほど申しましたとおり、委員の皆様には三宮周辺地区に求められる都市機能についての事前意見照会をさせていただいた結果を整理させていただいております。今回の資料3の本編に入れておりますので、ここでは簡単にご説明させていただきますと、どういった都市機能を盛り込んでいくか、商業だったり、業務だったりそういったテーマで分類させていただきながらお聞きいたしました。いろんな観点はあるのですが、やはり美しい町という視点が重要だというご意見を頂戴しております。またこの三宮を中心としながら都心全体への回遊性を高める、これは正しい認識だろうという話。最後はこの三宮だけでなく都心全体、特に元町側というご意見もありましたが、広がりを持った形にしていくべきだというお話をいただいております。また、商業の分野では、魅力ある商業とかサービス施設というものをもっと盛り込むべきだろうと。既存商店街だとか、オープンカフェだとか、そういった形で神戸を感じやすいような商業等の展開が望ましいのではないかと。業務という点では、女性だとか高齢者、外国人が働きやすい次世代型のモデル、事業の再生、新たな起業とか、インキュベーター機能、そういった価値というのを盛り込むべきではないかというお話をいただいております。このようなことを整理させていただいて、参考資料1の1ページ左側にはいただいたご意見を記載し、右側には再整備基本構想（素案）への反映方針という形でまとめさせていただいております。都市機能のヒアリングの結果につきましては以上でございます。

続きまして、参考資料2、A4の資料でございます。ご存じだと思いますが、5月25日

に市長会見で、この三宮周辺地区のまちづくりの方向性につきまして、これまでご議論いただき、神戸市としてもこういったことを目指していこう、こういったことを中心に考えていきますということを市長から公表させていただきました。それに対して頂戴したご意見をまとめた資料になっています。その結果ですが、回答いただいたのが100名ちょっとです。4ページ及び5ページに回答していただいた内容を記載しており、この三宮周辺地区のまちづくりの方向性についてのご意見を聞いた点、それともう一つ、5ページに書いていますのは、このえき＝まち空間という考え方を打ち出させていただきましたが、これについてのご意見をお聞きした結果です。どちらも、非常に共感できる、おおむね共感できるという肯定的側の意見と、余り共感できない、全く共感できないといったご意見がほぼ同数でございます。今までの議論の中でも、双方のご意見があったという結果を、やはり市民の皆さんも同じようにご意見として頂戴しております。共感できるとか、肯定側のご意見として、いろんな言い方をされていますが、人優先のまちづくりには共感する、こういうのを目指していくのは当然だろというご意見もあります。また、他都市にはないオリジナリティのある魅力的な町並みの実現に期待する、神戸の町が今までと大きく変わる強いメッセージが発信されている、インパクトがあるというようなご意見もありました。全く逆に、神戸らしさ、ワクワク感が感じられないだとか、公共空間や公共的なことばかりで、民間プロジェクトが示されていないだとか、抽象的、スピード感やスケジュールが感じられない。こういったご意見を頂戴してます。誰がどうやって実現してくのかということがわからないという点では、内容自身はご理解いただいていたとしても、それが本当にどのように進むのかというところに疑問を持たれているというご意見かと感じています。それと、えき＝まち空間についてです。これも肯定的なご意見は、やはり人中心に考え移動しやすい空間になるのはいいだろうと、水平、また上下に円滑に移動できる空間をつくるというのは、まさにやってほしいことだというご意見もありますし、日本でここだけのダイナミックなえき＝まち空間への転換を期待する、こういったところはほかの都市にないだろうと、そういったものの実現に期待するというお声をいただいています。一方、この会議でもご議論いただいたとおり、自動車交通が本当にうまくさばけるのか、渋滞はしないのか、またそれをどのような段階を踏んでやっていくのか、交通はここだけではないので、広域的な交通計画が示されていないという意見もあります。また玄関口そのものとしては、地上なのか平面なのかという中で、三宮のシンボルとして大規模デッキのほうがいいのではないかとご意見もございまして。そういった意味では、今までここでも議論を重ねてきたとおり、そのようなご意見を持っている市民の皆様がいらっしゃるというのは結果からも明らかでございました。もちろんすべての意見が同じ方向を向くということではございませんが、これまで議論されていた中では、人及び公共交通優先というまちづくり、それをどのような形で実現していくのか、そういうことをまさに考えていきたいということで、今回我々としては、地上中心という考えを打ち出させていただいたという

ころでございます。

続きまして、パブリックコメントの案ということで、一旦ここで説明を切らせていただきます。

4. 議事

○会長

ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明がございましたが、これまで構想会議で伺っておりました議論、それからその他いろいろな場面でさまざまな意見募集、提言などをいただいております。本日は、これからパブリックコメントにかけるために、ご提案いただいております三宮周辺地区の再整備基本構想(素案)につきまして委員の皆様方からご意見を賜りたいと思っております。

それでは、詳しい内容につきまして事務局よりご説明をお願いいたします。

○都心三宮再整備担当課長

私から資料3に基づきましてご説明をさせていただきたいと思っております。1枚めくっていただきますと資料の構成、目的が書いておりますので、ご説明させていただきます。

まず「はじめに」というところでは、この構想の背景なり目的、さらに構想の検討のエリアや目標の年次、三宮周辺に求められること、三宮周辺地区の課題につきまして整理をさせていただいております。「2. まちづくりの基本方針」、これはこれまで構想会議、また300人会議や市民フォーラム、シンポジウム等でいろいろな意見をいただいたものをベースに議論させていただき、整理させていただいた結果、目指すべき将来像だとか、このえき＝まち空間、まちづくりの五つの方針、またその方針図についてお示しさせていただいているものです。「3. 具体的な方策」というところでございますが、「2. まちづくりの基本方針」で五つの方針を掲げてございますが、その方針の具体的な内容について方針の1から5をここで記載させていただいております。「4. 構想の実現に向けて」というところでは、構想の実現のための長期的スケジュールのイメージとしてスケジュール案をお示しさせていただいております。先ほどご説明させていただいたとおり、市長会見での「まちづくりの基本的な考え方」に対する反応を踏まえ、市民の皆様への我々の周知等、まだ十分でないところ、詳しく説明が及んでいない部分があるのかなという点を挙げさせていただきます。物理的な前提となる制約の条件、三宮周辺における構造だとか既存施設がどうだとか、例えば鉄道の線路を動かすのか、そのままを前提とするのか、また地下街だとかいろいろなものがございまして、前提条件をどうするのかというところでも、やはり考え方が大きく異なっていると思います。また今回いただいているご意見の中では、目指すところを書いてはいるけれども、抽象的でどういう段階を踏んでやっていくのかが見えない、スケジュールやスピード感が感じられないというところについては、踏まえていく

必要があると思います。またワクワク感や大胆さが無いという点は、公共空間部分については述べられているけども民有地部分について具体的な記載がなされていないということかと感じております。そういったところについて今回の構想の目的をもう一度改めて確認をさせていただきますと、1ページの左上に書かせていただいておりますが、改めてここを読ませていただきます。この神戸の玄関口である三宮周辺地区の再整備は、神戸の町や経済全体を活性化する上で不可欠であり、民間活力の導入を図りながら、魅力的で風格ある都市空間を実現することが求められています。三宮周辺地区では民間事業者による開発機運が高まっており、神戸市が主体となる公共空間や公共施設整備との整合が図られた将来像を描くことが不可欠となっています。このため、行政と市民、事業者が共通の目標を持ちながら官民連携・協働で事業を推進し、さらなる民間事業を誘発することにより、都心の再生に向けた機運の高まりを確実に神戸の発展へとつなげていくため、事業化を見据えた具体的な取り組みを含む「三宮周辺地区の『再整備基本構想』」を策定する、このように述べさせていただきます。そういった意味では、少し具体的なものを含むとは書かせていただいておりますが、共通のこういった三宮周辺地区の目指す姿をまずはここできちんと掲げていくことが重要だろうと考えているところでございます。そういった中で、まず対象のエリア、この構想会議で皆様に議論していただいているところですが、改めて申しますと、都心の将来ビジョンというものを別の会議で議論させていただいていますが、この都心エリアの中の核エリアといえますか、三宮駅を中心としたおおむね半径500メートル程度の範囲について、おおむね30年後を見据えた段階的な整備を前提とする構想をつくっていきこうということでございます。この三宮周辺地区に求められることというところでは、五つ述べさせていただきます。この神戸の玄関口にふさわしい交通結節機能の充実、地区内及び周辺地区への回遊性の向上、さらに商業・業務、文化・交流機能の集積・更新、デザイン都市・神戸の玄関口にふさわしい景観形成、それと、災害に強く、環境負荷の少ないまちづくりの推進、これらはこれまでのご意見の中からも三宮周辺地区に求められてるということでございます。右のページは三宮周辺地区の課題です。ここは何度も議論をいただいておりますので割愛させていただきますが、大きなテーマを掲げた個別のところについても重視させていただきます。

1ページめくっていただきまして、「2. まちづくりの基本方針」です。左のページにございますとおり、大きく二つ、述べさせていただきます。その中でも一つ目、①えき＝まち空間、神戸の象徴となる新しい駅前空間といったものをつくっていきましょう。さらにそのえき＝まち空間を中心として地区全体への魅力向上を図っていきこうと、そういったことで、この六つの駅をつなぐ、まちをつなぐ、歴史をつなぐ、海と山をつなぐ、人をつなぐ、未来をつなぐ。こういった「つなぐ」といったことを書いてございます。その上に、美しき港町・神戸の玄関口三宮と書いてございますが、再整備基本構想と並行して取り組まさせていただきます。都心の将来ビジョンでは「日々の刺激と物語が生まれる美

しき港町神戸、多文化、多世代交流、あなたが参加している町」というテーマでまとめさせていただいているところで、都心の中の三宮周辺地区といった意味でこのようなテーマとを掲げさせていただいています。このあたりについても、ご議論、ご意見を頂戴できればと思っています。この二つ、えき＝まち空間とえき＝まち空間を中心とした地区全体への魅力向上という中で、まずこのえき＝まち空間とはどういうものかということ、一番上に書いておりますとおり、街であり駅である空間です。駅とはこの六つの鉄道駅でございますが、さらにバスの乗降場や駅前広場という、そういった意味での駅、さらに街をつなぐ、そういうこの三宮の駅前の空間をえき＝まち空間と名づけて、機能的に移動しやすい、乗りかえしやすいというのももちろんですが、神戸の玄関口としてふさわしい景観にも配慮された空間を整備していこうという考え方です。その考え方の内容を入れて、将来のイメージを紹介させていただいたものが下の図でございます。この空間に盛り込むべき事柄を書いています。例えば、山への眺望であったり、3層ネットワークの強化、まとまった広場空間、人と公共交通に優しいまちといった内容。また、憩える緑陰空間だとか、高質な花と緑の演出、わかりやすい縦動線の整備、さらに、オープンカフェ等によるにぎわいの創出といった、公共空間と民有地の一体的な活用というエッセンスを盛り込んだ空間のイメージをお示しさせていただいています。

次に、3ページでございます。まちづくりの五つの方針と、まちづくりの方針図でございます。神戸の三宮周辺地区に求められていることとして、五つ方針を書いております。一つ目が、歩くことが楽しくめぐりたくなるまちへというテーマです。二つ目が、誰にでもわかりやすい交通結節点。三つ目が、いつ来てもときめく出会いと発見を。四つ目が、人をひきつけ心に残るまちへ。五つ目が、地域がまちを成長させる。この方針図では少し具体的にどのようなこと、どのような姿を目指していくのかということをお示しさせていただいております。

まず、大きなテーマとして、新たな考え方を挙げさせていただいております。オレンジの太い破線で囲われたえき＝まち空間を、人と公共交通優先の空間にしていきましょう、また、駅周辺の歩行者動線を強化していこう、三宮の顔となる駅前景観を形成していこう、多機能集積・高度利用を図っていこう、といったテーマを書いています。それをどのように具体的に進めるのかといったところですが、このオレンジで十字に書いておりますフラワーロードと東西の主要幹線、この道路については、車から人の空間へ、人と公共交通優先の空間へ段階的に目指していきます。その際には既存の施設の高さ等を考えますと、今まで進めてきた3層ネットワーク構想をさらに利用しやすい形にするために、縦移動がしやすいボイドというものをつくっていこうということで、この丸印をつけております。また、青の丸で書いてるところには、このような機能を設けてはどうかということで、三宮の顔となる歩行者空間を整備していく、景観にも配慮していく、また駅前広場を拡充していく、バス停が散在しているので集約していく、そういった事柄を具体的にこういうエリ

アで進めていくということをお示しさせています。これがまちづくりの方針図でございます。

この次からが、まちづくりの5つの方針の具体的な内容について述べさせていただきます。一つ目は、歩くことが楽しくめぐりたくなるまちへということで、六つの駅があたかも一つの駅のように、そういった一体となった駅になるためにはフラワーロードとか主要幹線、これをできるだけ人と公共交通優先の空間にしつつ、3層ネットワークをさらに充実させていくといった取り組みをしてきます。そのためには、下にございますとおり、歩行者に優しい駅前空間実現に向けた都心の交通体系の見直しということで、自動車交通も含め、都心の交通体系を、回遊しやすいものにしていく、また自動車交通をきちんとさばっていく必要がある。そのためには、現況の調査もしていく必要がありますが、段階的にそういったものを目指していくためには交通体系の見直し、再構築が必要であり、こういったことには取り組んでいくということをお示しさせていただきます。右側で、にぎわいのあるスポットでの回遊性を高める歩行者ネットワークの構築、道路のリ・デザインとありますが、この三宮を中心としてさらに周辺地区へ広がっていく、つながっていく、人が通る主要な動線については、歩行空間をゆったりととっていく、また、歩行するだけでなく回遊できる空間、ベンチ等をつくっていくということをお示しさせていただきます。現状から整備イメージへの変化という形でお示しさせていただきます。そういったものをどういう場所にどのような雰囲気イメージでつくっていくのかということはその下の「市民や来街者が自由に憩い・集える滞留空間の創出」で構造図とそのイメージを掲げさせていただきます。この下は、デザイン性に考慮した神戸らしい緑と花のプロムナード。神戸というまちは傾斜もありますし、南北に海と山がございますので、そういった自然を生かしていくといったことを掲げさせていただきます。

次に5ページでございます。方針2、誰にでもわかりやすい交通結節点へということで、人が移動しやすいようにしていくが、そうはいつでも高低差がある。そういった中で、やはり縦移動というのもあるんだろうと。そういった縦移動をしやすいするためには、3層ネットワークの整備に合わせて、ボイドという外から見ても遠くから見てもわかりやすく、そこに滞留でき、地上からデッキへ、地下へとスムーズに行けるエスカレーターやエレベーターもあるような空間をつくるということをお示しさせていただきます。右側のページにいきますと、バスターミナルの整備をしていくという話です。さらに、このような交通結節点においては、いろんな交通手段を使われるだろう、また新たな交通手段も入ってくるのではないかとという意味で、その下にありますように、多様な回遊手段の確保ということで、最近皆さんにご利用いただいています“コミュニティサイクル”“コベリン”をもっと進めていこうとか、現在検討を進めておりますワンウェイカーシェアリングの導入を図れないとか、またLRTやBRTについての検討をしていくということをお示しさせていただきます。

次に6ページでございます。方針3、いつ来てもときめく出会いと発見をということで、この部分が今回三宮周辺に求められる盛り込むべき都市機能について、ヒアリングさせていただいた結果も盛り込ませていただいたものとなっております。大きく二つの視点で整理させていただいています。まずは、神戸に暮らし、働く魅力を高める、神戸を中から元気にしていく。三宮周辺地区というのは、神戸市という非常に住みやすい環境を背景を持った都心エリアのさらにその核エリアであり、業務機能を充実していく、働く魅力を高めることが重要であろうという観点。さらに、働くだけではなくて都市生活を楽しむ、充実させるという観点が必要だと、そういう整理をさせていただいております。もう一つの観点としては、インバウンドも含め、長時間滞在していただくような魅力を高めていく、そういった外から訪れる方に対する魅力を高めていこうということで、訪れる魅力の充実だとか、来ていただくためにはその魅力自身を知っていただかなければいけませんので、魅力の発信・提供をしていく、三宮周辺地区にはこんな魅力があるんですよということを発信していく。その具体的な方策を右側のページに書いています。例えば業務機能の充実、働く魅力という意味では、神戸スタートアップオフィスだとかアクセラレーションプログラムといったものを構築していくと。また、都市生活を楽しむという意味では、例えば子育て世代の方も安心して利用できるような施設という意味ではトイレもそうですし、また子供さんを預ける場所だとか、仕事をリタイアされた方がさらに知的欲求を満たすための図書館や生涯学習施設の更新、こういったものに取り組んでいくということを述べさせていただいております。外から来られる方には、訪れる魅力の充実といった点で、下から二つ目の枠ですが、例えば、にぎわい施設をさらに誘導・支援していく、またえき＝まち空間におけるエリアマネジメントといったものに取り組んでいくということです。また、魅力の発信、提供、今も現在行われている、例えばおとな旅、こういった魅力的な旅行商品の提供だとか、それを発信していく、もしくは神戸に来られた方自身が自由にそういった情報を得るためのWi-Fiサービスの拡大、こういったものに取り組んでいくということを述べさせていただいております。

次に、7ページでございます。方針4、人をひきつけ心に残るまちへということで、大きく一つ目には玄関口にふさわしい、神戸らしさを感じる景観を創出していく、見た目も非常に大きな印象だと思います。まず一番、神戸を訪れる玄関口であるこの三宮というところについて、特に三宮の中心、交差点を中心とする駅前空間においては、神戸らしさを感じる景観を創出していく必要があると。また、その空間については、先ほど示した図でもありましており、公共空間と民地が一体的にデザインされた駅前景観を創出していくことが重要です。そのためには、例えば右側にありますとおり、近景もそうですけども、眺望景観という、遠景、中景といったものでの視点場の確保、整備、さらには、街並み自身にも風格や文化の薫りが漂うようなデザイン誘導、例えば、右側の中段ですが、景観デザインコードを設定するなどして誘導していこうといったことを掲げさせていただいております。

ります。もちろん神戸の魅力は、ここでもご議論いただいているとおり、昼だけではございません。夜の明かりといったものも非常に大きな魅力ですから、そういったものにも取り組んでいくといったところを述べさせていただいているところです。

次に8ページです。方針5、地域がまちを成長させると、安全・安心だといったものは、下支えの部分です。こういったものは、やはり阪神淡路大震災を経た神戸市としては非常に重要視するということです。そういった中で、いかに今の公共空間を上手に使っていくかという点では、やはり地域、民間事業者が中心となり、そこへ神戸市もサポートしながら、エリアマネジメントといったもの、具体的な例としては、駅前でルミナリエの時期に行われてますような光のデッキ回廊だとか、最近、東遊園地で行われていましたが、アーバンピクニックだとかホワイトディナーという形で、まちの施設を皆さんの施設としてうまく活用していく、そういうエリアマネジメントをもっと進めていく必要があると。まさにそういった事例は今も既に始まっていると思っておりますが、これをもっと取り組んでいくと。安全・防災への取り組み、また環境への配慮といった意味では、右側にございますとおり、低炭素まちづくりやエリア防災への取り組みといったことで、こういったビル等が集積する場所ではいろんな事業が進められておりますが、その事業継続性を確保するためにも、熱源だとか電気を融通し合える、そういうエリア防災、もしくはエネルギーインフラをスマートに使っていこうと取り組んでいく。こういったものは全国的にも議論もされていますし、ぜひ三宮周辺地区でも取り組んでいくんだというようにしてございます。最後に、神戸の魅力を国内外に広報、PRしていく、シティプロモーションというものを強化していこうと。これは、大きな都市ではもう国内だけにとどまらず海外へ、そういったプロモーションが重要と感じておりますので、積極的に取り組むということをございます。

最後に9ページでございますが、構想の実現に向けて、なかなか年次を切ってというのは非常に難しいところではございますが、このように短期、中期、長期と区切り、左側にございますように、道路のリ・デザインだとか、バスターミナルの再編、また駅前広場の拡充等について継続的に取り組んでいくんだというところ。さらに、紫のところ。えき＝まち空間の街区等の再整備、これらを誘導また推進していくためには、統一感をもった景観とするためには、景観のガイドラインを策定しつつ、民間事業者へ事業の促進、声かけを行っていきたい。そうして生まれた新たな空間については、ぜひエリアマネジメント組織を立ち上げ、支援しながらうまく活用していくという形にしていきたいということでのスケジュールを書かせていただいております。右側におおむねそれらの事業の配置を書いておりますが、ざっくりとしたエリアをお示ししているところにとどまってございます。資料の説明は以上でございます。

○会長

ありがとうございます。ただいま事務局よりご説明がございましたように、事務局のほ

うで三宮周辺地区の再整備基本構想(素案)につきまして取りまとめをしていただいております。本日、素案につきまして委員の皆様から忌憚のないご意見をお伺いしたいと思しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

どなたからでも結構ですので、お気づきの点がございましたらよろしくお願いいたします。

○委員

今の説明を聞きながら、いつも話題になる神戸らしさや、神戸ならではのということについて頭をずっとめぐらせていたのですが、結果的には今説明があった内容というのはどこの町でもできるなということになってしまいます。神戸の特徴とかそういうようなことを考えていくと、何もできなくなってしまいます。そんな中でも考えてみると、どうなのかなと思ったら、大阪にしてもどこにしてもみな商業施設を駅の周辺に集めて開発をしていると思いました。そうすると、神戸はその逆へいくかと、したがって、六線全部の駅がここへ集約しているということは、乗りかえも含めて住民の人が非常に簡単に動ける、そういうものが外来者の人にはわかりやすい。きのうも大阪へ行ったのですがとても大変で、ホテルのシャトルバスに乗ろうと思ったら、歩き回らないと場所わからない、聞きまわらないとだめだという状態でしたから、そういうことが大事だと思います。だから、商業施設を充実させて、再開発をするのではなく、今ここに出ている、人に優しいとかそういう観点から、やることによって神戸らしさが出てくるのではないかなと思います。

それと、えき＝まち空間という言葉を使っていますが、そこでいろんなイベントができて人を集客しやすいイベント広場のような空間を確保するというのも、一つあるのではないかとことです。

それから、他都市にできないこと、神戸ならではのことが非常に求めにくいとすれば、まちづくりのトップランナー、よその町がまねしたくなるようなことを神戸が先駆けてすれば、それは神戸らしさになるのではないかなと思いました。

○会長

ありがとうございます。いかがでしょう。

○委員

えき＝まち空間とはうまく表現されていると思いますが、今、おっしゃった神戸らしさというのは、本当に難しいと、ご説明を伺っていて私も思ったところです。

六つの駅をうまく融合しながら全体を町の中に含ませていくというのは、ここが多分神戸らしいところだと思いますが、商業施設は既に三宮の商店街があるわけですが、こういう溶け込んだ町の中に新しい、若い人たちも求めるような商業施設も含めて組み込んでいくということも、同時に必要ではないかなと思います。

それと、業務施設については、このコメントを見ても、ホテルも含めてかなり批判的なご意見もありますが、このあたりは、これから東京以外の都市の競争力を考える上では、

やはり充実していく方向で展開していく必要があると思います。確かに需要がないから供給がないというのは、まさしくそのとおりで、今の神戸の現状を指摘されていると思いますが、ただ供給そのものを留めざるを得ないという何らかの障害があるということも、神戸のように非常に密度が濃く都市が形成されているところでは、もしかしたらあるのかなと思います。そのあたりは、それをうまく乗り越えていくプロセスが、神戸らしい都心づくりに今後つながっていくのかもしれないと思います。

6 ページの右側の、官・民の特性を生かして協働で三宮の魅力を高めるというところで、業務機能の充実が書かれていますが、経済の観点から言うと、これからの都市に求められているもの、逆に言えば、これまでの日本の都市になかったものは、やはり生み出していくメカニズムが必要だと思います。最近では起業というのにはありとあらゆるところで議論になっていて、神戸だけではなく日本中になってしまっているのですが、しかし、必要なことは神戸の経済の蓄積であり、現在の神戸の経済界の皆さんといかに連携した形でそういう新しいビジネスを生み出していく、経済活動を生み出していくような動きをつくれるのかということが大事だと思います。大学がたくさんありますが、これまで、こういう領域に関しては、確かに冷ややかだったというか、あるいは手を出さなかった、また手を出す力がなかったということなのかもしれないと思います。経済界と密接に連携しながら、さらに今回はこういう公共空間の中でこういう議論をしようとしているわけですから、行政のサポートの中で、エンジンをここにつくっていくということは大変重要だと思います。今回ハードの議論が多いのですが、ソフトウェアについてもぜひともこの機会に組み込んでいただければと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

参考資料2で、自由意見が書かれているところを見ていて、事務局からもえき＝まち空間についての意見が相反しているところがあったかと思いますが、書かれている自由意見で、なるほどと思うことが結構あります。えき＝まち空間という考え方は、狭い三宮の駅周辺の結节点的な空間で、都心の顔に、神戸の顔になるような空間をつくっていくとするのは一つの考え方として重要だと思います。しかし、そのイメージがうまく伝わっていない、公共的にもこうしたいという意思がうまく表現できていないと思います。例えば、9 ページの図も、この一番中心になっている車を止めてトランジットモール化して、駅前の空間を広げながら再構成していくという意思だとは思いますが、それなのにこの動線の図が、全然交わるようになっていない。あっちこっちにいける図になっていなくて、普通にこれを見たら、デッキをまた交差点につくるのだらうな、それと上下に移動するところをつくるんだなとしか見えないというのは当たり前だと思います。なので、中途半端な意思として表現されているところが、この意見募集結果にとってもあらわれていて、もう少し

空間的にきちんと意思を持って表現すべきだと思いました。先ほどおっしゃられたように、ほかの都市でできないことを神戸からやっていくことによって、新しいまちづくりだということで、神戸らしさをもっていくという意味においては、どこで車をとめると書いていないですが、駅前広場にそこそこの幅員があるわけですから、どこかでとめても双方向可能なわけで、そういうことでやってる町もいっぱいあるわけですし、都心の中心近くまで入れるけれども、そこでUターンするとか、いろんな回し方があるわけです。また、三宮の場合、南北の軸は歩道しかない部分があって、振りにくいところがあります。もっと明確に新神戸とつなぐという地区の表現も弱いし、例えばバスの路線にしる、かなり通っていますから、そういったものを再構成するくらいの気持ちで、数の論じゃなくて、このネットワークをもう一回考えるというようなことが意思として出てない。せっかくやろうとしているのだけれども、それがどういうふうに組み立てなおし得るかという方向性が見えにくいので、相反する結果になるのも当然だと思います。だから、本当に空間をあけていくのであれば、デッキは要らないという意見の人が多いのも確かに当然だと思いますし、そうでないならそうでない組み方があると思いますし、そのとおりだと思って読んでいたわけです。ですから、この狭い空間の中で、空間を広げていくというのも一つの考え方としてあると思いますが、それをやっていくならやっていくの意思をきちんと表現することが重要で、そこがどういうふうに商店街とつながっていくのか、東につながっていくのか、そういうものが全く表記されていない、わかりにくいようになっています。動線なのか、何がここに書かれているのかがとてもわかりにくくなっているので、そういったこともこの委員会で何回もいろんな議論が出ているわけですから、色を加えてそれなりに考えていくということも重要だと思います。

それから、景観についての意見が結構出ていて、神戸らしさであったり、何が見えてくるのかというときに、通りで見えることと広域で感じることと、いろんな場所の経験の仕方があると思うので、そういったことを三宮という場所の特性を踏まえて、もう少しわかりやすく、意図がわかるような構想の書き方を工夫するように。説明しているほうも、曖昧に説明している、何となくまだ決めたくないみたいなどころもあるような気がするので、そこをきちんとしていかないと民間事業者もつき合いきれないということになっていくと思います。お互いにきちんと意図を考えていくことによって協議もできるし、考えていくことも調整できると思うので、公共、パブリックスペース側から、こういうようなまちの空間で、こういう使い方をして、こうつながっていくんだと。だからここは一緒に考えてほしいとか、ここはもう少し動線について全体を考えながら調整したいとか、ここは一緒に考えたいというようなことが、単なる空間をつくりたいというような表記ではなく、ハードをこうつくりたいという表記ではなく、まちの空間として全体の中でどうしていきたいかという意思がわかるような表現の仕方が重要だと思います。マネジメントのこととか、トップのところというのは、先ほどおっしゃったとおりで、この場に来ていただいている

地域の方とか民間事業者の方が、神戸というのはどういう場所として、ビジネスの場として考えてらっしゃるのかを聞いてみたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

神戸らしさということについて先ほどから出ているのですが、港町として発展してきて、山と海に挟まれたところに街が横たわるとというのが神戸かなと感じています。そういう意味では、三宮周辺地区という500メートルの範囲から離れてしまうのですが、南北軸の移動をどうスムーズにするかというのが課題だと思います。この辺が市民も不安なのかと思います。そういう南北をどうつないでいくのかということ、多様な回遊手段の確保というところで記載しているんですけど、もう少しこの辺の構想がいるのではないかと思います。

○会長

末包先生いかがでしょう。

○委員

駅前の空間として、神戸らしさについて限定すると、進取の気風というか、新しいものをどんどん取り込んでいこうという軸かなと思います。そうしますと、今回の再整備基本構想そのものが神戸らしさをまたつくるのではないかとということがまず一つのポイントだろうと思います。中央幹線のペデストリアン化というのは、かなり画期的なことだと思います。なかなか到達するのは難しいだろうけれども、これができれば新しい神戸の駅前の空間像をつくり出すだろうと思います。その上で、まず五つの方針の立て方はこうなるとは思いますが、実は景観というのは、こういう分けられたものではなくて、それらトータルの総合体として、ある意味、結論としてあるのではないかと思います。あるいは前提としてあるという感じがしておりまして、逆にほかのところに入っている項目でもいいので、重複してもいいので、重要な項目をここに書き込むということでもいいかと考えるかと。あえて1から5まで分けて、その中でキーセンテンスを分けておられますけれども、景観の中に全部それが最後折りたたまれていくということでもあり得るのかと思いました。少し視点を変えまして、やはり駅前の空間というのは、特に三宮は海と山の結節点としての駅前であるということが重要であって、それが神戸の駅前の第一印象となる空間像と言いますか、あるいは街の像と言いますか、ということで、そこを統一していく必要がある。その上で景観ガイドラインの構想も入っているわけですが、この会議に出ておりまして、景観のポイントが多く三つの視点で申し上げておりまして、前回までに特にオープンスペースの重要性、先ほどおっしゃったパブリックスペースから町を考える重要性とか、あるいは緑で町をつないでいく、あるいは人で町をつないでいく重要性というふうに申しましたが、あと、実は景観で必要なポイントというのは二つございまして、一つは人でござい

ます。二つ目が、実は最後ですが、建物です。まず人というのは、都心ですので、やっぱりにぎわいが求められる。にぎわいというのは、あふれ出てくるもので見えないものです。そうしますと資料にもありますが、居留地とはちょっと違って、もう少し人のアクティビティが見えてくるような建物のデザインコードの考え方があるんじゃないかなろうかと。簡単に言いますと、低層はもう少しガラスが多くてもいいんじゃないかなろうかと。そこで人がわーわー動いて、と言うとおかしいですが、動いている姿、町のダイナミクスが、旧居留地のちょっとしっとりした落ちついた感じよりももう少しダイナミックな感じの、視線が行きかうような駅前空間のあり方があってもいいんじゃないかと。

それから、建物について、余り今まで触れてこなかったんですが、景観の基本は敷地における配置と、どのように置くかということと、どういう規模のものが置かれるかだと思っていて、駅前としての高度利用を確保しながら、壁面線の統一や、あるいは、高度利用が求められますから、旧居留地のように第一壁面線で軒高を決めて、通りから見たときは一定の通り景観として、外部型景観形成というのか、あるいは、今回言っているえき＝まち空間型景観形成というのか、そういうコントロールを考えてみないと、このままでは、一つの統一された空間像としてのハード的な認識もやや難しいと思いました。以上、人のオープンスペース、緑の点が重要であるということ、人に優しいということ。人のにぎわいの点。それと建物の3点から申し上げさせていただきました。

○会長

ありがとうございます。神戸らしさという問題提起から始まりまして、非常に多くのご指摘をいただきました。これまででいかがですか、すべてのことにお答えいただくというのは難しいですけど、事務局で何かご感想がございましたらお願いします。

○都心三宮再整備担当課長

ありがとうございます。ご指摘いただいたとおり、例えばえき＝まち空間について、どのようにしていくのかということについては、確かにまだ伝わっていない、伝えきれてない部分があるのかなと思います。また、この空間をどのような空間にしていくのかというところも、今のイメージパスだとか、私どものこの説明の資料では弱いだとか、十分伝わっていないというご指摘をいただいて、もう少し工夫が必要だと感じました。また、この三宮を中心としながら海山への南北の移動というのはどうなっていくのか、これはここでお示ししきれてないというところがあり不十分だと、そのとおりかもしれません。私はこの都心交通体系については再構築していく、考えていくと述べさせていただいておりますが、そこはできるだけ早くお示ししていくことが重要だと認識させていただきました。ありがとうございます。

○会長

ありがとうございます。

○委員

先ほどデッキをやめてしまえばどうかと言われていました。私は、非常に賛成です。そもそもデッキ、3層ネットワークを維持しようというのは、駅が2階や1階、地下にあるから、それぞれの3層ネットワークが必要ではないかということで賛成しました。ところが、ネットワークのメインを地上に持ってくると、そういう話にこの会議自体がなってきたと。それで地上を歩いていたら、見た目や景観等、すべてにおいてデッキは邪魔者です。先週東京に行っていましたら、東京の丸の内ではデッキはないようです。ところが、ビルのメインエントランスというのは結構2階とかにあります。どう行くかと言うと、地下から2階まで一発で行けるのです。例えば、三宮でもポートライナーの駅は2階にあります。これが2階にあるのでネットワークが2階にも必要だというのは、地下から2階の駅まで一発で行けるようなものがないからです。もしそれがあれば、2階でネットワークをつないで南からそごうとつなぐような必要はほとんどないと思います。そう考えると、この誰にでもわかりやすい交通結節、3層ネットワークの強化というのは意味がないと思うし、先ほどの市民の方から出た意見でも、またやっぱり3層をやるのか、とありました。そう思われるのはしゃくですし、では3層ネットワークをやめるのはどうかというのが、非常に前向きな神戸らしい街の新しい模索として言おうではないかと、このように思います。そごうさんの北側に立ってみると、あの歩道橋は邪魔者です。あれも本当はないほうがいいと思います。例えばそごうさんがもっと地下にきれいに入ることができる。そしてさらに、地下から、例えば阪急の駅にすっと入れる。そういった地下のネットワークを強化することで、今以上の効果は十分出ると感じます。それが、一番強く感じた点です。

それと、先ほどおっしゃられたような、景観というのは一番大事で、方針4に神戸らしさを感じる景観というのがありますが、この最初に出てくる左右の写真が非常に失礼な写真だと思います。つまり郷愁を感じられる、昔の神戸を感じられるようなものがないのであって、今の神戸はだめだという書き方になっていると思います。例えば、今の三宮駅のターミナルビルをつくられた方もそれなりに考えられていますし、マルイさんのビルもそれなりのデザインであって、そういったデザインがもてはやされた時期もある。別に、神戸は新進気鋭の雰囲気なのだから、その当時一番いいものであればそれでいいのだと思います。昔の港町のイメージだけを感じさせるものが、神戸らしさと考える必要もないかなという感じがします。神戸らしさを感じるまちをつくるのがこの会議の目的であれば、そこにこういう写真がくると非常に困ると思います。

○会長

ありがとうございました。

○委員

先ほどおっしゃられたことは確かにそうだと思います。仮設的な処理としての3層ネットワークというのはひょっとしたらあるのかもしれないと思いますがけれども、最終的にここにトランジットモールのようなものをつくるのであれば確かにそうだと。だから、中途

半端につくると撤去するのにとても手間がかかるだろうと思いますし、その辺はどうするのかと思います。

それと、実際にこのトランジットモール化を、歩行者空間にしてしまおうというのがどこからどこまでなのか、実はわからない。それによってどんな処理が必要なのかも変わってくると思いますし、さらに言うと、中央通りが西から東へつながっているわけですが、元町周辺へどんな形でどんなものがつながっていったらいいか、どのようなつながりがもっていいかというの、気になります。

JRや阪急が、どれだけ建物をつくってどんなふうに出る等の配置が行われるのかというのは、今の段階で誰もわからないわけです。であれば、逆に言うと、こうしてほしいというものがそこに出てこない限り、阪急さんにしてもJRさんにしてもどうしていいか全く決まりません。決まらないままいくと、勝手につくってしまうという恐れが非常に高いわけです。それだったらもっと具体的にこうしてほしいというもの、恐らくそういうものがないと何もできないし、商業者である我々からすると、どこに何が出てくるのかわからないし、どのような形につながっていくのかもわからなければ、次に何かをしようということにはならないと思います。三宮構想なので、いわゆる神戸の中心、都心の中のさらに中心というところをやろうとしているわけですから、都心の未来については総花でいいと僕は思いますが、三宮はそうはいきません。ここはこうするんだという明確な意思を持って取り組んでいかないと、何年かたったときに、「しまった」ではすまない話になると思います。ぜひともできるだけきちんとした具体的なイメージを持って訴求力のあるものにしていかないといけないと思います。ですので、三宮の交差点を歩行者空間化するのであれば、かなりきちんとした考え方と、先に目指すものを持っておかないと結局何もできないうえで終わるような気がします。

○会長

お願いします。

○委員

交通のアクセスに関しまして、私はずっとデッキ化をやめてほしいと言ってきました。

今、外国人が日本に來られてどこの写真が一番多くなってきたかと言うと、渋谷の交差点です。みんなどこで写真を撮りたいと言ったら渋谷になっています。あそこには、デッキとか何もないと思います。あの良さというのは、東西南北、非常に行き来がしやすいという点です。今、事務局が出しておられる他都市との比較という資料を見られるとわかると思いますが、どこの町も陰と陽が駅の周辺に起こっています。京都駅はどうか、あるいは福岡駅はどうか、名古屋駅はどうかというふうに見てみますと、全部陰と陽がくっきりと出てきておると。神戸の場合もくっきりと出ています。フラワーロードを挟んで西側は、少しはにぎわいがあります。これもまた、JRさん、阪急さんが近くにあるのでこんなにすぐれた立地はないということになっています。ところが、東に行きます

と、アクセスが非常に悪いために陰の部分がたくさん出てきているというのが神戸の三宮周辺の特徴ではないかと思います。これをまず解決しないと、商業者がやるべきことをあれやこれやというような会議ではないと思います。アクセスをどうするのか、これは一番大事な点で、JRさんが建てかえられるのであればこういうアクセスだとか、阪急さん、阪神さん、バス事業者さん等も含めて、アクセスということを重点的に検討する。これが神戸の未来にとって最も大事なことだと思います。南についても、そごうさんあるいはマルイさんのあたりを含めた歩行空間を、十分考えてもらいたい。同時に駅の北側についても同じくらい、あるいは東側のアクセスも考えてもらいたい。同時にこれは検討会議の対象外になりつつある話ですが、加納町の交差点、新神戸のあたりもよく考えてもらいたい。

○会長

ありがとうございます。

○委員

平成25年に神戸市総合交通計画が発表されまして、この時点でトランジットモールを取り入れようかというような話があったと思いますが、そのときの目標年次が2025年、平成37年ということで打ち出されておりました。今回この素案を見ますと、おおむね30年後ということになっておまして、これは三宮再整備基本構想という新たな目標ができたということで、目標年次が延びたということではないかと思います。それと、デッキの話ですが、ミント神戸からニッセイビルのほうに新しくできまして、そこから東のほうに、阪神電鉄さんの東口ができたために、そこにつながるようなエレベーターもできまして、デッキがつながっています。そのデッキができたときに、ミント神戸の横側の東急ホテルさんと南側につながる信号が時差式か歩車分離になるかと私は期待していましたが、これが全然ならず、いまだにバスその他商業車が、歩行者が信号を渡るのを待ってから通っており、左折するのに相当困っています。バスにしても1回の信号で3台ぐらいが行けたらいいほうかという状況になっています。これは、2号線がポートライナーのところで南下しており、この2号線は国土交通省の管轄だと思いますので、その辺が神戸市と折り合いができてないのかなと思います。中距離バスターミナルを東側につくるという話が出ていますが、ダイエーさんや、サンパルさんのテナントさんから、そんな話はいつごろどういう具合に出てきたのかという意見も出ているそうなので、30年後を考えるよりも、今私が申しましたような信号の歩車分離形式とか時差式とか、そういう方向でまずやってほしいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

最終的にこの基本構想は誰にプレゼンテーションして、どの人に一番理解してもらうのがいいのかという話になると、このまちに来られる方にとってわかりやすくないと幾らいい構想ができて、何も役に立たないと思います。そういった意味で、先ほどから出

ている、もっとキーワードをクローズアップしてわかりやすくしたほうがいいのではないかと、ポイントをもう少し絞って誰でもわかるように、というのは私も大賛成です。基本的なこの五つの項目についてはこうなるかなと思いますし、その中でどれをクローズアップしてどれを市民の皆さんにわかりやすく表現するのがいいのかというのが、次のテクニックになってくると思います。最初のアンケートを見ますと、答えた方の年代がほとんど30代、40代、50代ということで、今人口の4分の1を占めている高齢者、60歳以上の人の回答がほとんどないというのは、この中身が少しわかりづらく、そういったものに対して何となくで「うん」と思った人が年齢の高い方にいらっしゃるのかなと思います。先般あった大阪都構想も結局若い世代は非常に賛成が多かったということがあったように、いろんな年代の人に受け入れられないと、何となくという話になってしまうのではないかと思います。そういった意味でいくと、先ほどから出ている神戸らしさ、モダン、洒落たとか洗練とかロマンチック、こういったキーワードをもう少しこの五つの方針とひっつけて明快にして、誰でもわかりやすいものにしていく。それと、もう一つ、神戸市の昼間人口は、多分夜間に比べて多いと思いますが、それがどういう人たちがまちに来られていて、職業別、年代別、いろんな分類の仕方はあると思いますが、昼間に来街されている人はどんな人が多いのかなということが、特に我々商業施設の人間にとってはそこが大きなポイントになってきますので、その部分も含めて再度まとめていただければと思います。

○会長

今ご指摘のあったデータにつきましては、後日整理をしていただきたいと思います。

○委員

この会が目指しているアウトプットのレベルがどのレベルなのかというのがよくわからなくなってきました。

こういうプランをパブリックコメントにかけてアウトプットとしてまとめるという前提で、この会議があるとしても、総花的過ぎるのではないかと思います。時間軸を含めて強調することしないこと、それぞれ強弱がないと、おもしろくないように感じられます。

一つは、時間軸です。調査や都市計画審議会での議論が必要だとか言っていると、あっという間に時間がたってしまいます。「都市間競争に負けないようにやっ払いこう」という前提がないと話にならないと思います。どんな立派なものをつくっても実現するのが随分先になってしまえば、それまでに都市間競争に敗れてしまいます。神戸らしさとおっしゃっていますが、神戸らしさがこれだけあるから絶対負けないというアドバンテージなどありません。国際都市神戸と言うけれど、国際都市といって競合している国内他都市と比較すると、いい勝負だとか、いや、神戸は負けているぞというところが幾らでもあります。人口的にも、もう福岡に抜かれるということを久元市長も常に意識されています。ですので、ぜひ実践プランをスケジュール感を持って作っていただきたい。抽象的な表現をするのではなく、例えばJR三ノ宮東口のプロジェクトとはこうです、雲井通のプロジェクト

クトとはこうです、というように、より具体的なものを出さないとパブリックコメントをしてもみんな困るのではないかと思います。

それから、フラワーロードと中央幹線の交差点のそごうの前の空間も、今回パブリックコメントしようとしているがこういう考え方のもとに具体的にこうしようと思っている、というのがないとだめだと思います。その具体的な話をするときには時間軸が入ってないと話にならないと私は思います。

それから2点目ですが、いろいろな切り口で書いておられる中で、インバウンドあるいは来街者にたくさん来ていただくのも大事ですが、究極は日本全体の人口が減少していく中で、定住人口を維持したり、あるいは増やす、これが都市間競争に勝つということになると思います。市民生活のインフラ、教育、あるいは福祉、健康、安全・安心等、要は、市民にとってすばらしい都心という切り口が非常に大事です。何よりも働く世代に定住していただくということがないと、都市間競争の中で埋没していきます。働き場をつくるということも都心の「未来の姿」検討委員会であっても、三宮構想会議であっても意識の中に十分持つておくべきであると思います。働いて、定住していただく、人を増やすという意識で強調されてはいかがかと思います。また、めり張りをきかす中で、業務系というの意識していただきたいと思います。

神戸らしさについては、みんなそれぞれに神戸らしさに対する思いがあるでしょうから、これが神戸らしさをつくる構想なんだ、えき＝まち、歩行者を重視する、これが神戸らしさだと言い切れればいいと思います。いずれにしろ、市がリーダーシップを取って引っ張っていかないと百家争鳴で、会議がおどってプランができました、それだけで終わってしまうような気がして、非常に心配です。ぜひ実行プランを示していただきたいと思います。

○会長

ありがとうございます。

○委員

この基本構想の素案を見て、非常にたくさん書かれています、ワクワク感が全くない、わかりづらいというのが率直な印象です。先ほどのお話の中にありました、これを誰にプレゼンするのかということ、最終的には神戸市民だと思いますが、では市民がこれを見てどう思うのかというと、恐らく何も感じない、あるいは、また難しいものができたという印象を受けると思います。よく読むと、よく考えられた内容だと理解しますが、やはりそういった能書きも重要だと思います。先ほどから何度も出ている時間軸に関しては、一番初めに30年後と書いてあることすら実は私は気づきませんでした。書いてることすら見落としてしまう。ただ、これは非常に重要だと思いますし、ましてや段階的に整備と書いていますから、10年後はこうです、20年後はこうです、30年後はこうですという書き方を出していただいたらいいのかなと思います。とにかくこういったものは、わかりやすくされるほうがいいと思います。先ほど事務局からご説明をいただいたときも、恐らく

30分ぐらいしゃべっていらっしゃったかと思いますが、それはわかりづらいというより、結局何を言っていたのかわからないという結果になると思います。やはりこういったものは10分、15分ぐらいがちょうどよいと思いますので、そういう内容にさせていただけたらいいなと思います。

○会長

いかがでしょうか。

○委員

最近勉強していて感じることは、都市間競争では、やはり仕掛けです。仕掛けがあると、人はその仕掛けに乗っていく。例えば、阪急百貨店さんは、従来だったら百貨店では考えられないような3層分の空間をアメニティゾーンにしたことでものすごく人を呼んでいます。その空間で、人に来ていただけるような演出、プロモートがされており、さらに人が集まる。近鉄のあべのハルカスも、あれだけ高層の展望台ですので一度は行ってみたいくなる、そういう仕掛けに乗っていく人は結構います。百貨店には物さえ買いに行くことができればいいということではなくて、そういう仕掛けによって一回行ってみたいと思わせることが重要だと思います。大阪の迫力ある再開発ゾーンの仕掛けの観点からすれば、そういうものは神戸にはないと思います。ですので、この会議にもとづいて、10年、20年、30年後のそれぞれの仕掛けを、この地域でエリアマネジメントによるこういう仕掛けをやるのではないか、というものを見出していかないと人は動きません。いろいろ勉強しに行き、私はそう感じました。なぜ人は集まってくるのか、エリアマネジメントで言えば、須磨海岸でイルカを楽しんでもらえるような大きいプールをつくった。これを見たいという人は結構います。そういう仕掛けが大事だと思います。しかし構想会議では、何を仕掛けていくのか、聞いていてもさっぱりわからない。どういう仕掛けをしていくのか、これをしかけたい、あれをしかけたいという思いはあるのでしょうか、本命というものがどうもわからない。そろそろ、神戸ではこう仕掛けていきたいというものを見出していかないと、都市間競争に負けていくと感じました。

○会長

ありがとうございました。

○委員

今、どういうことに取り組んでいるかと申しますと、ガールズバーの客引き対策であります。これは既に新宿でやっており、大阪でも先日始まりました。神戸では、9月末までPRして10月から検挙するという方向であります。それ以前には暴力団廃止条例を、そして三宮センター街で3回ほどパレードをしましたので、現在は、感じが良くなっています。この10月1日からのガールズバー、キャッチセールスは時間帯が違いますので、苦勞すると思いますが、商店街の皆様と一緒に活動をし、神戸市の方々とも仲良く取り組んでいます。私の場合は、今まで絶対にやらねばと思ったら実行して参りました。治安が悪くなれ

ば、女性のお客さんが減り、神戸のまちはだめになりますので、兵庫県警と生田署の方にはいつもご尽力をいただき、一緒に頑張っております。

○会長

ありがとうございます。地域の安心・安全は非常に大事な問題だと思います。

○委員

阪急の東のビルは、震災以降20年がたって、そろそろ建てかえという話も出ていますが、今後、三宮再整備基本構想など、いろいろご意見をいただきながら進めていきたいと思っています。この肝は、人と公共、神戸の交通の中心、まちづくりだと思います。日本全国で最近よくそういうキャッチフレーズの構想が描かれていますが、トランジットモール化が実現できているというところは恐らく日本では少ないと思います。何がそれを阻んでいるのかということを出していただいて、それを解決していかないと、こういう絵だけを書くのではなく、実現に向けてどうしていったらいいのかというステップがないと市民の方から本当にこれは絵だけじゃないのかと見られかねませんので、そういった強い決意を持って、進めていただけたらと思います。我々も公共交通の一躍を担っている事業者でございますので、ぜひとも協力させていただいて進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○会長

ありがとうございます。

○委員

3点申し上げたいと思います。1点は、私どもも神戸のまち、特に三宮が元気というか活力があるまちになっていただきたいという思いでいろいろ参加してまいりましたが、三宮地区に必要な都市機能というものをどういうものにするかということが、まずは必要ではないかと思っております。三宮に目的がないと来ていただけませんので、どういった目的があるまちにするのが大切であろうと思っております。そうしたときに、この6ページの絵を見ますと、働く魅力、楽しむ魅力、それから訪れる魅力、三つほど挙げていただいておりますが、これはうまく分けていただいたと思うのですが、一つ一つを見ていきますと、働く魅力のところを見ますと、起業とか外資系とかいう文字はあるのですが、どんな業務が神戸らしいのかということについてもできれば言及したほうがいいと思います。神戸は港町ですので、例えば物流というのが一つ神戸らしいのかなと思いましたがけれども、別にそれだけでなく構いませんので、こういった業務を中心に働く魅力を高めていくんだという具体性が出てきますと、よりワクワク感が高まるのではないかと思います。

あと、楽しむ魅力ですが、先ほどからいろんな意見がありましたが、私は楽しむ魅力という中の一つの重要な要素は商業ではないかと思っております。三宮はやはり商業の中心でありますし、これからもこうした魅力を高めていただきたいと思っておりますので、商業の中心地という視点も、できればここに入れるべきではないかと思っております。その際にどんな商業が神

戸らしいかという視点も併せて書き入れたらいいのではないかと思います。今までこの会議で出てきた中では、和菓子とか洋菓子とか、そういったものが非常に神戸らしい商業なのではないかと思いますので、例えばそういったものを入れてはどうかと思います。

ここに書かれている文章を見ますと、図書館という文字があるのですが、これを見て思いましたのは、少し前に市長が記者発表されたときに、世界で最も美しい書店を誘致するという話がありました。それはそれでいいなと私は思ったのですが、書店とこの図書館というのがどのように関係するのかと、今これを見て疑問に思いました。そういった市長の構想と整合性が取れるような表現にしておいたほうがいいと思います。

2点目、方針2のところですが、一番右下にコミュニティサイクル・コベリンとあります。自転車をどうするかというのはこの会議でも少し議論があったと思います。私は歩行者中心のまちというときに、自転車と歩行者を一緒にしてしまっているのかと少し疑問があります。歩いているときに後ろから自転車が来て怖い思いをしたという人もいらっしゃると思います。ですから、うまく自転車と歩行者がすみ分けられるような手段をセットで書いていただかないと安心して歩いていられない、心配になるのではないかと思います。

3点目、最後の9ページですが、この右側の絵のオレンジの楕円形がえき＝まち空間だと思います。そうすると、左側のスケジュールのイメージで見ますと、この8番がえき＝まち空間内だと思いますので、この右側のオレンジ色の楕円の中の整備がこの8番のスケジュールかと読めます。その8番の中に、JRの新駅ビルと阪急の駅ビルという括弧の文字がありますが、これではえき＝まち空間内の再整備という項目を矮小化してしまうのではないかと思います。というのも、このオレンジの空間の中でやはり大変なのは、8番の結びで書かれている、例えばサンプラザのあたり、そごうさんのあたり、それから勤労会館のあたりです。このあたりでかなり大がかりな夢を描こうとしてるんだということが、オレンジの楕円形の中の話です。ここで見ると、二つの駅ビルだけ名前が入っていますが、これだけだというように矮小化してはいけないのではないかと思います。あと気になることと言いますと、右側の9番の絵と、3ページの絵に、ちょうど5番のところでJRの駅の新東口検討というのがあるのですが、この丸の形がここだけ合っていません。どちらかに合わせたほうがいいのではないかと思います。新東口があるとしても、単に改札口をつくるだけではなく、駅前広場とセットでなくてははいけませんので、そういったところがわかりやすく一体化された丸のほうがいいのではないかと思います。

○会長

ありがとうございました。

○委員

当社は、平成25年3月20日に駅をリニューアルオープンさせていただきました。現状の数字を申しますと、なんば線とつながった効果で当然人は増えているのですが、つながる前は約8万7000人おりました、つながった後は約9万7000人ほどになり、約1万人増えま

した。さらに、数年たった現在は約10万人ということで、鉄道業者として、昨今なかなかないような数字になっておりまして、大変ありがたく思っています。皆様のおかげで、このように認めていただきました駅でございますが、やはり、つながるという影響は大きい、すなわち、アクセスというのは非常に大事だとつくづく思います。先ほども委員の方から何度も出ておりますが、駅周辺の皆さんとも、ぜひ、アクセスという意味で、連携して、さらに発展していきたい、また、皆様に貢献していきたいと思っています。その際にバス、あるいはタクシーとも密接な連携をしていきたいと思っています。アクセスを大切にして貢献できればと思っております。

○会長

ありがとうございます。

○委員

2ページの左側に地図がございまして、その右上に幹線道路への通過交通の誘導とさりりと一行書かれていますが、これが要するに人と公共交通を優先としたまちづくりの必須条件だと思います。そういう意味でこの基本構想の中でこういう方向性を出していただいたということは非常にいいことだと思います。これについて、どのように誘導していくのかが残念ながらわからないということで、非常に難しい問題だと思います。これが具体的にどういう形でというのが見えてこない、この基本構想自体が単なる構想で終わるのではないかと思います。できたら基本構想の中に、通過交通の誘導について、もう少し書き込んでいただけたらと思います。特にこの500メートル圏内というよりは、もう少し手前で、ある程度誘導していかないといけないし、下手に誘導されますと道路が混んで、今スムーズに流れているのが、誘導するあたりで混むと、我々のバスもなかなか三宮の中心に入れないということが起こり得ると思いますので、その辺をもう少しご検討いただいて書き込んでいただけたらと思います。

○会長

ありがとうございます。先生方、最後に何かご発言ございましたら。よろしいでしょうか。

本日は大変たくさんの貴重な意見を賜りましてありがとうございます。すべてのことを集約するというのも不可能ですので、1、2点だけ感想を述べさせていただきたいと思っております。

この構想で一番重要な「えき＝まち空間」という概念。駅は駅、まちはまちと別々に考えるのではなく、ソフト、ハードを通じて駅とまちをどう融合させていくかという新たな概念を打ち立てようというのですが、市民の皆さんに理解していただくには少し難しい概念であったかなと思います。やはりもう少しブラッシュアップして、易しく説明していく必要があると、皆さんのご意見をお聞きして思いました。

それから、構想なので少しでも多くのご意見、決められることを盛り込もうということ

で、それらを可能な限り入れていただいたわけですが、逆にそれが原因で、内容が少し平坦なイメージになってしまい、何をやろうとしているのか、何が一番したいのか、何が最も核となるプロジェクトなのか、そういうところが少し見えにくくなったのかなと思います。めり張りという言葉で何度もご指摘いただいておりますが、このところはぜひ最終の取りまとめにおいて、今まで皆さんと一緒にやってまいりました議論が市民の方々にはわかりやすく伝わるようにぜひとも工夫をしていただきたいと思います。いただいたご意見は、事務局のほうで一つ一つ吟味していただいて、可能な限りこの基本構想に反映させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

委員の皆様方には、大変熱心にご議論いただきましてありがとうございます。

それでは、議事進行を事務局のほうへお返しいたします。

4. 閉会

○三島都心三宮再整備担当部長

小谷会長、委員の皆様、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。本日いただきましたご意見を踏まえまして、パブリックコメントの案をまとめていく必要があると思っております。その中で、先ほどいただきました誰に発信していくのかということが一つ大きな課題になってきました。そういうことでいきますと、ご意見ありましたように、構想をつくって今後民間が動いていく、それを指導していくということですから、そういう観点も要りますし、やはり市民にワクワク感を持たせるという観点もございます。そういう形でこの資料のまとめ方というのを、しっかり考えて進めさせていただきたいと思っております。本日いただきましたご意見を踏まえて、皆様に、場合によっては、個別にご相談に行かせていただいたり、意見をいただいたりしていくことが必要になってくるかもわかりませんが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、本日の意見をいただきまして神戸市としてしっかり議論をいたしまして、パブリックコメントの案をまとめましてパブリックコメントを進めさせていただきたいと思っております。最終的な案のまとめ方につきましては、会長と最終的には議論させていただいて決定させていただきたいと思っております。このように進めさせていただきたいと思っておりますが、それでよろしいでしょうか。

それでは、そのように進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それと、きょうはなかなか時間が急いております、本日十分に言い足りなかった点につきましては、初めに申し上げましたように配布しております資料で、ファクス等でいただくなり、またアドレスを記入しておりますのでEメール等で事務局までお届けくださればと思っております。また、今後パブリックコメントの手続に入る予定もございますので、

できましたら6月中にご意見をいただけたらと思っております。

次回の開催につきましては、このパブリックコメントの手続を行いまして、三宮周辺地区の再整備基本構想が固まった段階で皆様にご報告するという形で考えさせていただきたいと思っております。報告会につきましては、神戸の都心の『未来の姿』検討委員会と合同で開催するという形で、日程等につきましてはまた後日連絡させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、最後に住宅都市局の山崎より一言ご挨拶させていただきます。

○山崎局長

住宅都市局長、山崎でございます。委員の皆様方におかれましては、本当に大変お忙しい中、お時間を割いていただきまして、ご出席をいただき本当に熱心なご議論をいただきましたことを改めまして感謝を申し上げたいと思います。今後の進め方につきましては、先ほど三島からもお話をさせていただいた通りでございますけれども、我々としては、できるだけ市民の皆さんにわかりやすく、本当にいい神戸の街ができるんだなということが実感していただけるような、そういう計画に取りまとめていきたいと思っております。引き続き、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。最後ご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○三島都心三宮再整備担当部長

それではこれもちまして、三宮の構想会議を終了とさせていただきます。お忙しい中、ご出席をいただきまして本当にありがとうございました。